

整形外科

1 整形外科の特色

整形外科は、四肢、脊椎を含む運動器を扱う科です。当科では、救急部と協力して、開放骨折、脊椎外傷、四肢神経、血管損傷などの外傷治療を積極的に行っています。また、脊椎・脊髄外科、関節外科、手外科、末梢神経外科、人工関節外科などは、当科の最も得意とする分野です。部長以下比較的若い医師が多く、熱意と活気にあふれた診療が行われており、上下の区別なく自由な討論、質議応答が日常的に行われるのも、当科の特色です。

2 研修目標

(1) 一般目標 (GIO : General Instructional Objective)

- ① 救急医療：運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診察能力を修得する。
- ② 慢性疾患：適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・修得する。
- ③ 基本手技：運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技を修得する。
- ④ 医療記録：運動器疾患に対して理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を修得する。

(2) 行動目標 (SBOs : Specific Behavior Objectives)

I 救急医療

- ① 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる。
- ② 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べることができる。
- ③ 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができる。
- ④ 脊髄損傷の症状を述べることができる。
- ⑤ 多発外傷の重症度を判断できる。
- ⑥ 多発外傷において優先検査順位を判断できる。
- ⑦ 開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。
- ⑧ 神経・血管・筋腱の損傷を診断できる。
- ⑨ 神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。
- ⑩ 骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる。

II 慢性疾患

- ① 変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。
- ② 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍の X 線、MRI、造影像の解釈ができる。

- ③ 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる。
- ④ 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。
- ⑤ 理学療法処方の理解ができる。
- ⑥ 病歴聴取に際して患者の社会的背景や QOL について配慮できる。

III 基本手技

- ① 主な身体計測（ROM、MMT、四肢長、四肢周囲径）ができる。
- ② 疾患に適切な X 線写真の撮影部位と方向を指示できる（身体部位の正式な名称が言える）。
- ③ 骨・関節の身体所見がとれ、評価できる。
- ④ 神経学的所見がとれ、評価できる。

IV 医療記録

- ① 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。
主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー、内服歴、治療歴
- ② 運動器疾患の身体所見が記載できる。
脚長、筋萎縮、変形（脊椎、関節、先天異常）、ROM、MMT、反射、感覚、歩容、ADL
- ③ 検査結果の記載ができる。
画像（X 線像、MRI、CT、シンチグラム、ミエログラム）、血液生化学、尿、関節液、病理組織
- ④ 症状、経過の記載ができる。
- ⑤ 診断書の種類と内容が理解できる。

3 学習方略

(1) 研修期間

1 - 3 ヶ月間の研修を行う。

(2) ローテート法

整形外科、脊椎脊髄外科、人工関節外科、末梢神経・手外科、外傷センターが、一体となって診療を行っているため、症例ごとに適した領域の研修を行うことになる。

(3) 方法

- ① 研修医は、指導医（上級医師）一専修医のチームに配属され、指導医のもとで、病棟、外来、手術室での診療を行う。(2.2) . I ~IV)
- ② 病棟で患者を受け持ち、指導医の助言、助力を得ながら、術前の病歴聴取、診察、評価を行い、診療録に記載する。(2.2) II, III, IV)
- ③ 整形外科カンファレンス（週 2 回）で症例の呈示、報告を行う。(2.2) . IV)
- ④ 外来見学後、実際に病歴聴取、診察を行ない、指導医の指導を受ける。(2.2) III, IV)
- ⑤ 受け持ち患者の手術に手洗いをし参加する。指導医の助力を得ながら止血操作や

縫合処置、縫合糸の結紮、整復内固定術などの手技を研修する。(2.2). III)

⑥ 整形外科に必要な術前、術後管理を行う。(2.2). III)

⑦ 救急患者への対応、救急処置などを指導医とともに行う。(2.2). I)

⑧ 適宜行われる学会予行や報告会に参加する。(2.2). IV)

(4) 週間スケジュール

曜日	月	火	水	木	金
スケジュール	8:30～ 病棟、外来、 手術室 17:00 部長回診 カンファレンス	7:30～ カンファレンス 8:30～ 病棟、外来、 手術室	8:30～ 病棟、外来、 手術室	8:30～ 病棟、外来、 手術室	7:30～ カンファレンス 8:30～ 病棟、外来、 手術室

4 研修計画責任者

運動器センター	センター長	三上	容司
整形外科・脊椎脊髄外科	部長	三好	光太
手・末梢神経外科	部長	山本	真一

5 研修指導医

整形外科・脊椎脊髄外科	部長	三好	光太
手・末梢神経外科	部長	山本	真一
関節外科・整形外科	副部長	小泉	泰彦
脊椎脊髄外科・整形外科	副部長	竹下	祐次郎
脊椎脊髄外科・整形外科	副部長	齊木	文子
関節外科・整形外科	副部長	川畑	謙介

6 評価

研修終了時に、当院研修評価表に基づいて、評価する。